

令和7年度八万南小学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指数と活動計画	評価			
確かな学力の育成 聞く態度の育成 学習意欲の高揚 ICT教育の推進 読書活動の推進 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 自分の思い考えを伝え合う力の向上 家庭学習の習慣化 基礎・基本の徹底 個に応じた指導の充実	① 話を黙って最後まで聞ける態度を育成する ② 学ぶ楽しさやわかる喜びを感じ主体的に学習に取り組むことができる態度を育成する。「わかった」「できた」「もっとやりたい」等 ③ タブレット端末等を有効活用した学習の推進を図る。 ④ 思考力・判断力・表現力等を育む言語活動を充実させる。 ⑤ 家庭学習（家庭との連携）なども含めた「学ぶ習慣づくり」を定着させる。 ⑥ T・T指導等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 ⑦ 読書活動等を通して、感性を磨き、読解力・表現力・創造力を高める。	評価指数 ① 自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」95%以上 児童アンケート「わたしは、先生や友だちの話を最後まで聞いている。」90%以上 ② 自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、学習することが楽しい。」85%以上 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」90%以上 保護者アンケート「学校は、お子さんが意欲的に学習に取り組めるような工夫をしている。」80%以上 ③ 自己評価「タブレットを効果的に活用できる。」80%以上 児童アンケート「タブレットや大型テレビをつかった学習は分かりやすい。」85%以上 ④ 自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」95%以上 児童アンケート「わたしは、友だちの意見を聞いたり、自分の考えや意見を伝えたりすることができている。」85%以上 ⑤ 自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、毎日家庭学習をしている。」90%以上 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」80%以上 ⑥ 自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」95%以上 自己評価「各教科の基礎・基本にあたる学習内容の指導を丁寧に行っている。」90%以上 ⑦ 自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」80%以上 保護者アンケート「お子さんは、本が好きである。」80%以上	評価指数の達成度 ① 自己評価「話の聞き方のルールを徹底している。」87% 児童アンケート「わたしは、先生や友だちの話を最後まで聞いている。」95% ② 自己評価「子どもが主体的に学習に取り組めるような課題の設定や発問の工夫を行っている。」91% 児童アンケート「わたしは、学習することが楽しい。」81%以上 児童アンケート「わたしは、授業で学習したことをよく理解している。」86% 保護者アンケート「学校は、お子さんが意欲的に学習に取り組めるような工夫をしている。」87% ③ 自己評価「タブレットを効果的に活用できる。」70% 児童アンケート「タブレットや大型テレビをつかった学習は分かりやすい。」89% ④ 自己評価「個人学習やグループ学習等の自分の考えを表現し合う場を設定している。」92% 児童アンケート「わたしは、友だちの意見を聞いたり、自分の考えや意見を伝えたりすることができている。」86% ⑤ 自己評価「毎日、宿題や自主学習をチェックし、最後の直しまで確認している。」91% 児童アンケート「わたしは、毎日家庭学習をしている。」93% 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習によく取り組んでいる。」73% ⑥ 自己評価「個々の特性を理解し、指導方法の工夫を行っている。」87% 自己評価「各教科の基礎・基本にあたる学習内容の指導を丁寧に行っている。」91% ⑦ 自己評価「読書活動の時間を確保し、読み聞かせを充実させている。」70% 児童アンケート「わたしは、本をよく読んでいる。」54% 保護者アンケート「お子さんは、本が好きである。」48%	総合評定 (評定) B (所見) ① 話の聞き方のルールについての指数が低かった。聞き手、話し手双方が意識することで、話を最後まで黙って聞ける態度につなげたい。 ② 学習に対する楽しさや理解度の指数が低かった。「楽しさ」「分かりやすさ」につなげる主体的な学習に課題がある。 ③ 旧端末は動作も不安定であったので、タブレットを効果的に活用しづらかった。 ④ 自分の考えを表現しあう場を、毎時間、単元ごと、学期ごとに設定していく必要がある。 ⑤ 家庭学習の意義や効果を子どもと保護者に共通理解する必要がある。子どもや保護者の宿題についての考え方も多様化している。 ⑥ 個に応じた指導がしづらい理由には、教員の配置人数的な問題も関係しているのではないかと。 ⑦ いずれも低い数値だった。読書習慣の確立には、周りの大人や友だちの影響も大きい。	学習を進める中で、好きなことに没頭できる環境を整えるなどして個々に興味があることをもっと引き伸ばす工夫をしてほしい。 タブレットを授業の中で活用しているクラスが以前よりも多くなっており、活用方法も的確になってきた。子どもの理解を深めるのにすばらしく効果的に使われている。その反面、使わない時は電源を切るなど目の健康・情報過多に配慮した使い方の課題もある。 授業の枠にとらわれず、図書室をもっと有効活用できるよう工夫してほしい。また、読書時間がとても少ないのが気になった。個々に「読みなさい」と読ませるのみならず、読書の世界に興味をもつ窓口をまずは、先生による読み聞かせ等、教師やクラスで始める機会はないものか、期待したい。	話し方のルールを示し、子ども側の聞く意識を高めるとともに、教師側も、落ち着いて話が聞ける場作りを行う。 児童が主体的に学習につなげるため、個別最適な学びについて、教員研修を進めていく。 タブレットが新しく更新され、より日常的にICTを授業で活用できるよう、「まずは使ってみよう」という意識を教師も子どももち、その良さを実感できるようにしたい。 教師はゆとりのある授業計画や単元設計を意識し、子どもの活動時間を確保したい。 「学ぶ習慣づくり」をそもそもの目的として、話し合っていくたい。 教員数が少ない中で個に応じた指導の在り方を考えていきたい。 ICTも効果的に活用し、個に応じた支援ができるようにしたい。 大人も子どもも読書の時間が確保できるように、ゆとりある教育課程を目指したい。
				活動計画 ① 聞き方のモデルを示し、ルールを徹底する。 ② 各授業における課題設定(めあて)や発問を工夫する。 ③ 効果的なタブレットの活用についての研修の実施と系統的な学びを実践する。	活動計画の実施状況 ① 聞き方のモデルを示し、ルールを徹底する。 ② 各授業における課題設定(めあて)や発問を工夫する。 ③ 効果的なタブレットの活用についての研修の実施と系統的な学びを実践する。	

		④ 根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを書いたり、表現したりする場面を設定する。 ⑤ 家庭学習の手引きに加え、学習の進め方のモデルや文例の提示等を行い、自主的・効果的な学びを推進する。 ⑥ 合理的配慮の実践等、個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。 ⑦ 読書への意欲付けを意識した読書活動や読み聞かせを実施する	④ 根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを書いたり、表現したりする場面を設定する。 ⑤ 家庭学習の手引きに加え、学習の進め方のモデルや文例の提示等を行い、自主的・効果的な学びを推進する。 ⑥ 合理的配慮の実践等、個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。 ⑦ 読書への意欲付けを意識した読書活動や読み聞かせを実施する。			
自己評価			自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価		学校関係者の意見	
2 豊かな心の育成 いじめ撲滅のため早期発見・早期対応 人権教育・道徳教育の推進 自尊感情や自己肯定感を高める学級経営 自他の生命を大切にす態度の育成 互いを認め合え合う仲間づくり 根拠と忍耐力の育成	① いじめ撲滅のための早期発見・早期対応を心がける。 ② すべての教科等で人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。 ③ 「特別の教科道徳」の時間をはじめ、すべての教科等で道徳教育を展開し、よりよく生きていくための資質・能力を培う。 ④ 自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める学級経営を推進する。	評価指標 ① 自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気付き、対応している。」95%以上 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、先生や友だち、お家の人に相談できる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」80%以上 ② 自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけるなど、相手のことを考えて行動できる。」85%以上 保護者アンケート「学校は、一人一人を大切にしながら、教育活動を進めている。」80%以上 ③ 自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができていく。」90%以上 児童アンケート「道徳の授業で勉強したことは大切だと思う。」90%以上 ④ -1 自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」90%以上 児童アンケート「自分にはよいところがある。」80%以上 保護者アンケート「お子さんは、自分のよいところを感じられている。」80%以上 -2 自己評価「児童をよくほめている。」90%以上 児童アンケート「先生や友だち、お家の人などか	評価指数の達成度 ① 自己評価「日ごろの児童観察を大切にし、児童の些細な変化に気付き、対応している。」95% 児童アンケート「わたしは、困ったことがあれば、先生や友だち、お家の人に相談できる。」82% 保護者アンケート「学校は、いじめ等困ったことがあればすぐに対応してくれる。」85%以上 ② 自己評価「全教育活動において、人権教育の推進に努めている。」82% 児童アンケート「わたしは、困っている人に声をかけるなど、相手のことを考えて行動できる。」90% 保護者アンケート「学校は、一人一人を大切にしながら、教育活動を進めている。」85% ③ 自己評価「道徳の年間計画にそって学年で足並みをそろえて道徳教育を進めることができていく。」87% 児童アンケート「道徳の授業で勉強したことは大切だと思う。」96% ④ -1 自己評価「子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高める場を設定している。」91% 児童アンケート「自分にはよいところがある。」83% 保護者アンケート「お子さんは、自分のよいところを感じられている。」88% -2 自己評価「児童をよくほめている。」92% 児童アンケート「先生や友だち、お家の人などから褒められる。」87%	総合評価 (評定) B ① 今後も取り組みを継続し、より児童が相談しやすい環境を作るとともに、外部相談先の周知にも努めることが必要である。また、教員自己評価は100%をめざしたい。 ② 教員自己評価は前年度を大幅に下回って目標に達していない。今後、人権教育充実のために、計画の見直しをして内容の充実を図る。その計画の中に、人権集会を効果的に位置づける。 ③ 児童が道徳の時間に学習したことの重要性を前年度より大きく感じることができている。学年で足並みをそろえることについては目標を下回ったが、それぞれの教員が学級特有の課題を捉えて指導していることが一因とも考えられる。 ④ PBS(ポジティブ行動支援)が浸透し始めており、教員が児童への声かけを工夫している。今後も継続する。	他人の痛み等分かる人になれるように積極的にボランティア活動を推進してほしい、そのきっかけを学校で工夫してつくる取り組みに期待したい。 写真掲示や児童へのコメントから、クラスごとに特色ある子ども一人一人への「肯定」を感じることができた。 自己肯定感の高い子どもも実際に何かがおけると弱い子が多いように思う。不測の事態に対応出来る力を育ててほしい。そのためには、日々の意識の持ち方や生活の仕方の積み重ねが大切である。 「自分にはよいところがある」と答える児童の割合がやや低い点が気になる。学校では声かけの工夫をしていただいているとのことだが、自己肯定感の育成は家庭での関わりも大きな要素だと考える。ただ褒めるのではなく、「何を」「どのように」認めるのか。そのためにも、子ども一人一人を丁寧に見つめることが大切だと感じる。学校と家庭で声かけの視点を共有でき	注意深く児童と関わる機会を増やし、些細な変化を察知し、教職員・保護者・関係機関等、連携しながら、早期発見・早期対応に努める。研修などを取り入れ、教師の人権感覚をより一層磨くことが必要である。すべての教育活動の中で人権尊重の精神を尊重できるように意識していく。 道徳の時間に考えたことや思ったことの深化を図り、生活に実践する力を高められるようにしていくことが大切である。 引き続き、児童の自尊感情・自己肯定感・自己有用感を高められるような場を設定し、声かけをし、励ますようにする。

<p>⑤ 自他の生命を大切にすることを育成する。</p> <p>⑥ 人の長所に目を向け、互いを認め合い、支え合う仲間作りを継続的に行う。</p> <p>⑦ 何事にも最後までやりとげる掃除や当番・委員会活動、ボランティア活動等、根気と忍耐力を培う。</p>	<p>⑤ 自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画して、取り組むことができた。」90%以上 児童アンケート「学校では、自分や友だちなどの命を大切にすることを教えてくれる。」90%以上</p> <p>⑥ 自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」90%以上 自己評価「積極的に特別支援学級在籍児童との交流を図ったり、外部講師を招いたりする等、児童が体験的に学ぶ機会を増やしている。」80%以上 児童アンケート「わたしは、友だちのよいところや素敵などを知っている。」90%以上 保護者アンケート「お子さんは、他人を思いやる心が育ってきている。」85%以上</p> <p>⑦ -1 自己評価「当番や係等の仕事・清掃活動を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」90%以上 児童アンケート「当番・委員会活動等、自分の役割に責任をもって最後まで取り組んでいる。」85%以上 児童アンケート「学校や学級をよりよくするために、ボランティア活動やお手伝い等をしている。」75%以上 保護者アンケート「お子さんは、やるべき事を最後まで取り組むことができる。」80%以上 -2 自己評価「他クラス、他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」90%以上</p>	<p>⑤ 自己評価「学年の年間計画として命の授業を計画して、取り組むことができた。」78% 児童アンケート「学校では、自分や友だちなどの命を大切にすることを教えてくれる。」95%</p> <p>⑥ 自己評価「児童が互いを認め合い、支え合う仲間づくりの活動を行っている。」100% 自己評価「積極的に特別支援学級在籍児童との交流を図ったり、外部講師を招いたりする等、児童が体験的に学ぶ機会を増やしている。」86%以上 児童アンケート「わたしは、友だちのよいところや素敵などを知っている。」96% 保護者アンケート「お子さんは、他人を思いやる心が育ってきている。」97%</p> <p>⑦ -1 自己評価「当番や係等の仕事・清掃活動を行う場を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導の工夫をしている。」95% 児童アンケート「当番・委員会活動等、自分の役割に責任をもって最後まで取り組んでいる。」91% 児童アンケート「学校や学級をよりよくするために、ボランティア活動やお手伝い等をしている。」71%以上 保護者アンケート「お子さんは、やるべき事を最後まで取り組むことができる。」86% -2 自己評価「他クラス、他学年と活動の工夫について情報交換を行っている。」91%</p>	<p>⑤ 教員自己評価が低い原因として、「命の授業」という文言の捉え方に個々の違いがあるのではないかと考えられる。「生命」の内容に関する授業はどの学年でも指導しており、来年度は質問文の修正を考えている。(案：学年の教育活動の中で、生命に関する授業を計画して取り組むことができた。)</p> <p>⑥ 全教員が「仲間づくり」の視点で、学級経営・学年経営に取り組んでいる成果が現れている。今後も継続する。</p> <p>⑦ 「学校や学級のために」や「ボランティア活動」など、児童にとって少しハードルが高い表現であることが、教員と児童の認識差につながっていると考えられる。来年度は質問文の修正を考えている。(案：だれかのために、自分から動いたりお手伝いをしたりしている。)</p>	<p>る機会があれば、より良い効果につながると思う。</p>	<p>引き続き、自分・他人・動植物等すべての命を大切にできる児童の育成をめざす。</p> <p>引き続き、体験的な活動を通して、周りの人々とうまく付き合っていける児童の育成をめざす。</p> <p>特別活動等を活かし、児童が主体となって取り組める方法を考えていく。</p>
	<p>活動計画</p> <p>① 年に2回アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>② 各学年の人権教育担当の教員を中心に、人権教育年間計画にそった人権教育を進める。</p> <p>③ 各学年の道徳教育担当教員を中心に、道徳の年間計画にそった道徳教育を進める。</p> <p>④ 集団の中で、「任せる、褒める、認める」ような場を設定する。また、活動を振り返る場も設定する。</p> <p>⑤ 各学年で「生命」の授業を実施し、生命を尊重する心を養う。</p> <p>⑥ 学年実態に応じた仲間作りの活動を設定している。</p> <p>⑦ 清掃活動や当番等の意義を知らせる。また、教師</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 年に2回アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。</p> <p>② 各学年の人権教育担当の教員を中心に、人権教育年間計画にそった人権教育を進める。</p> <p>③ 各学年の道徳教育担当教員を中心に、道徳の年間計画にそった道徳教育を進める。</p> <p>④ 集団の中で、「任せる、褒める、認める」ような場を設定する。また、活動を振り返る場も設定する。</p> <p>⑤ 各学年で「生命」の授業を実施し、生命を尊重する心を養う。</p> <p>⑥ 学年実態に応じた仲間作りの活動を設定している。</p> <p>⑦ 清掃活動や当番等の意義を知らせる。また、教師自ら</p>			

		自らが行って見せたり、仕方を工夫して教えたりする。	が行って見せたり、仕方を工夫して教えたりする。				
		自己評価				学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画		評価		学校関係者の意見	
3健康な心と体の育成 ・ 体力の向上 ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 家庭と連携した食育の推進 ・ 充実感や達成感の体感	① 運動の楽しさや面白さを感じることでできる体育授業を工夫する。 ② 外遊びや徒歩通学を積極的に奨励する。 ③ 体育的行事への積極的な参加を呼びかける。 ④ 学校給食を中心に食育を推進し、健康の保持推進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 ⑤ 「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底、生活習慣の育成を図る。 ⑥ 仲間と協力することの大切さや汗を流して働くことのすばらしさを学び、最後までやり遂げる充実感や達成感を体感させる。	評価指標		評価指数の達成度		総合評価 (評定)	
		活動計画		活動計画の実施状況			
		① 自己評価「各学年の発育発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」90%以上 児童アンケート「体育の授業では自分のめあてをもって楽しく体を動かしている。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、体育の授業や運動することが好きである。」85%以上 ②③自己評価「外遊びをするように啓発したり、体育的行事の参加を呼びかけたりしている。」85%以上 児童アンケート「わたしは、外遊びをしている。」80%以上 ④ 自己評価「給食を教材として活用し、食に対する感謝の気持ちを育てている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、給食の時間に感謝の気持ちをもって、好きなものも苦手なものも食べることができる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をすることができる。」80%以上 ⑤ 自己評価「早寝・早起き」「朝ごはん」をするように啓発している。」85%以上 児童アンケート「わたしは、早寝早起き・朝ごはんができています。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、基本的な生活習慣が身についている。」80%以上 ⑥ 自己評価「友だちと協力する場面を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導を工夫している」90%以上	① 自己評価「各学年の発育発達段階の特性と各運動量域の教材について理解が深まるように自己研修を行っている。」83% 児童アンケート「体育の授業では自分のめあてをもって楽しく体を動かしている。」89% 保護者アンケート「お子さんは、体育の授業や運動することが好きである。」84% ②③自己評価「外遊びをするように啓発したり、体育的行事の参加を呼びかけたりしている。」96% 児童アンケート「わたしは、外遊びをしている。」79% ④ 自己評価「給食を教材として活用し、食に対する感謝の気持ちを育てている。」91% 児童アンケート「わたしは、給食の時間に感謝の気持ちをもって、好きなものも苦手なものも食べることができる。」87%以上 保護者アンケート「お子さんは、食べ物や作ってくれた人に感謝して食事をすることができる。」82% ⑤ 自己評価「早寝・早起き」「朝ごはん」をするように啓発している。」87% 児童アンケート「わたしは、早寝早起き・朝ごはんができています。」79% 保護者アンケート「お子さんは、基本的な生活習慣が身についている。」87% ⑥ 自己評価「友だちと協力する場面を設定し、最後までやり遂げられるよう、指導を工夫している」90%	A ① ねらいを明確にした授業実践により、児童もめあてをもって楽しく体育学習に取り組んでいる。運動が苦手な児童へのアプローチの仕方を考えないといけない。 ②③全く外遊びをしていない児童が一定数いるので、啓発を継続したい。体育行事の参加率は高く、友だち同士で競い合ったり励まし合ったりして、相乗効果を生んでいる。 ④ 食に対する感謝の気持ちをもたせることができた。 各担任が、給食の時間に、苦手なものも頑張っで食べるように促したことで、児童も意識して食べるようになった。給食の時間の放送では、その日の給食の食材について取り上げているので、食への感謝の気持ちを育てている。 ⑤ ほとんどの児童が朝ごはんを毎日食べているが、早寝早起きの苦手な児童が多い。就寝時間が遅くなるように、スマホやゲームの利用時間を考える必要がある。 ⑥ 準備から片付けまで、協力して取り組めるような授業ができています。	家庭教育を含め、食育教育について、その内容や機会をもっと充実させてほしい。 教諭の一生懸命さや声かけの熱量が子どもたちの心の成長に比例しているように感じた。 外遊びや運動が好きなきが多いように思うが、放課後等は学校、部活、習い事等で過ごす子が多く、公園などで遊ぶ子は少ないように思う。室内のゲーム遊びなどに集中する子どもも少なくない。それぞれの子を見落とさず育成してほしい。 外遊びをしない児童が一定数いることを課題として捉えている点については、少し視点を広げて考える必要があると感じる。外遊びが苦手な児童もおり、無理に促すことが逆効果になる場合もある。大切なのは、「外遊びをしないこと=悪いこと」と受け取られないことではないかと考える。多様性の観点から考えると、みんなが同じでなくてもよいという価値観を大切にしながら、互いを認め合える環境づくりも重要だと考える。	運動が苦手な児童でも夢中になれるように、体育の授業での場の作り方やルールを考えて取り組ませる。体育主任を中心として共通理解や伝達を図り、学年の差が出ないようにする。 体育委員会を中心として、外遊び推進週間を作り、どの学年も楽しめるような遊びを考える。教師自身ももっと外へ出て児童と遊ぶように働きかける。 朝活で給食の食材を取り上げて授業を行う。 教師の残食に対する意識の差をなくし、苦手なものも食べるように声かけを行う。徳島にはたくさんのおいしい食材があり、調理してくれる人がいるから毎日の食事が楽しめていることを理解させる。 スマホ・タブレットとの上手な付き合い方について授業でも取り上げ、家庭にも学年だよりを通じて啓発する。 準備から片付けまで、協力して取り組めるような授業を継続して行う。	

		<p>るように声をかける。同様に徒歩通学ができるよう呼びかける。</p> <p>③ 体育の授業で積極的に取り組んでいる児童を中心に体育的行事への参加を促す。</p> <p>④ 児童の健康な心身の育成のため、生きた教材を生かした食に関する指導の充実を図る。 食べ物を大事にし、感謝して食事ができるようにする。</p> <p>⑤ 保健の学習や生活アンケートを行うなど、「早寝早起朝ごはん」の意識づけを図る。 睡眠と食事の重要性について、教職員で共通理解を図る。</p> <p>⑥ 「ゴミ0 声0」の「0 0そうじの日」を設け、集中して無言清掃に取り組み、最後までやり遂げられるようにする。</p>	<p>うに声をかける。同様に徒歩通学ができるよう呼びかける。</p> <p>③ 体育の授業で積極的に取り組んでいる児童を中心に体育的行事への参加を促す。</p> <p>④ 児童の健康な心身の育成のため、生きた教材を生かした食に関する指導の充実を図る。 食べ物を大事にし、感謝して食事ができるようにする。</p> <p>⑤ 保健の学習や生活アンケートを行うなど、「早寝早起朝ごはん」の意識づけを図る。 睡眠と食事の重要性について、教職員で共通理解を図る。</p> <p>⑥ 「ゴミ0 声0」の「0 0そうじの日」を設け、集中して無言清掃に取り組み、最後までやり遂げられるようにする。</p>		
--	--	--	--	--	--

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画		評価		学校関係者の意見	
		評価指標		評価指数の達成度		総合評価 (評定)	
4個に応じた特別支援教育と生徒指導 ・ 規律や規範意識の高揚 ・ 積極的に組織的な児童理解の推進 ・ 一人一人の実態に応じた指導の工夫 ・ 子どもたちの長所の伸長 ・ 校内支援委員会及び支援体制の充実 ・ 教職員の研修 ・ 保護者への啓発	① 子どもたちが学校で仲間とともに生き生きと楽しく学べるよう支援する。	① 自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」90%以上 児童アンケート「わたしは、安心して楽しく学校生活を送っている。」85%以上 保護者アンケート「学校は個に応じた指導をしている。」80%以上	① 自己評価「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」91% 児童アンケート「わたしは、安心して楽しく学校生活を送っている。」92% 保護者アンケート「学校は個に応じた指導をしている。」75%	B ① 教員は楽しく生き生きと学べるように効果的な方法を工夫し、児童も楽しさを実感していた。保護者の願いやニーズを適切に捉え、それをもとに指導することに課題が残る。 ② 児童理解の会(職員会やケース会議等)を設け、児童理解に努めることができた ③ 集会以呼びかけたり、教師が手本となるような行動を率先して行ったりした。日々の学習や、生活の中で機会を捉えて、場に応じた正しい言葉遣いができるよう継続して取り組む必要がある。 ④ 個に応じた教材や指導方法の工夫について、よく実践できていた。今後も道徳や人権の学習、日々の学校生活を通して、互いを尊重し認め合う心を醸成していく。 ⑤ 放課後の時間を中心に空き時間を利用して、効果的	かなり充実してきているが、コーディネーターをもっと活用することに課題がある。 学習の中で、個々に応じた指導(特に特別支援学級)に感銘を受けた。一人一人にむきあい、多くの教師の方々が手厚く関わっていて素晴らしいと思った。具体的には、写真、カードの用い方が効果的に感じた。一人一人が大事にされていると思った。 学校が現行制度の中でできる限りの対応をしていることは、保護者として大変ありがたい。一方で、自己評価と保護者評価に差が見られる項目もあった。この差を埋めていくためには、「評価」ではなく「対話」が必要ではないかと感じた。保護者が安心して相談できる関係づくりと、学校側の思いを共有する場づくりが今後の鍵になると考える。	継続して児童の実態に応じて、効果的な指導法や学習方法を工夫していく。また、指導法を共有していくことも必要である。 保護者と連携を密にして願いやニーズを的確に捉え、指導に生かしていく。また、学習の様子を積極的に知らせしていく。 交流学級への意義指導を計画的に行い、互いに尊重し認め合う環境を整え、仲間作りを進める。 引き続き特別支援コーディネーターの役割や校内支援委員会などの開催方法、外部機関との連携方法などを、研修等で周知、理解を図る。 特別支援学級と交流学級の担任間で連携を密にする。学年会に特別	
	② 積極的に組織的な児童理解を推進する。	② 自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」90%以上	② 自己評価「必要に応じて教職員間で連絡や相談をし、児童理解に努めている。」96%				
	③ 規律や規範意識(あいさつ・言葉遣い・無言清掃等)の高揚に努める。	③ 自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」90%以上 児童アンケート「わたしは、場に応じた正しい言葉遣いができる。」85%以上 保護者アンケート「お子さんは、元氣な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることができる。」80%以上	③ 自己評価「児童の手本となるように教師が率先して、挨拶や清掃活動を行っている。」91% 児童アンケート「わたしは、場に応じた正しい言葉遣いができる。」89% 保護者アンケート「お子さんは、元氣な挨拶をしたり、きまりを守ったりすることができる。」96%				
	④ 一人一人のニーズに応じた指導支援をさらに工夫する。	④ 自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」90%以上 「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」90%以上 保護者アンケート「お子さんは、自他の違いを理解し、認め合おうとしている。」85%以上	④ 自己評価「児童の実態を捉え、個に応じた指導方法を工夫している。」83% 「児童の特性に応じた効果的な方法を検討し、実践している。」91% 保護者アンケート「お子さんは、自他の違いを理解し、認め合おうとしている。」92%				
	⑤ 特別支援学級と交流学級との連	⑤ 自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」90%以上	⑤ 自己評価「交流学級と支援学級の担任間で、効果的に情報交換をしている。」95%				

<p>携を密にして子どもの居場所を確保する。</p> <p>⑥ 特別支援教育コーディネーターを中心に、校内体制のさらなる整備をすすめる。また、関係機関等との連携や保護者への啓発等も積極的に図る。</p>	<p>⑥ -1 自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」90%以上</p> <p>-2 自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者とつなぐ役割を果たしている。」90%以上</p> <p>-3 「不登校傾向のある児童がいる場合、保護者や不登校担当教員と情報交換をしながら、連携し、対応している。」90%以上</p>	<p>⑥ -1 自己評価「特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーと連携して指導している。」87%</p> <p>-2 自己評価「外部機関とも積極的に相談し、保護者とつなぐ役割を果たしている。」91%</p> <p>-3 自己評価「不登校傾向のある児童がいる場合、保護者や不登校担当教員と情報交換をしながら、連携し、対応している。」96%</p>	<p>⑥ -1 特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーの活用を定期的に複数回開催する。</p> <p>-2 外部の機関と連携し、効果的な助言等を得ながら取り組むことができた。</p> <p>-3 ケース会議や校内支援委員会を中心に対応を話し合い、保護者と連携して取り組むことができた。</p>	<p>に情報交換することができた。</p>	<p>支援学級担任が参加し、情報交換する。家庭との連携を深め、信頼関係を築く。</p>
<p>自己評価</p>		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
<p>① 一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p>	<p>① 一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p>	<p>① 一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p>	<p>① 一人一人の特性に応じて学習方法を選び、指導方法を工夫する。</p>		
<p>② 定期的に見童に関する情報交換の機会を設け、共通理解を図る。</p>	<p>② 定期的に見童に関する情報交換の機会を設け、共通理解を図る。</p>	<p>② 定期的に見童に関する情報交換の機会を設け、共通理解を図る。</p>	<p>② 定期的に見童に関する情報交換の機会を設け、共通理解を図る。</p>		
<p>③ 場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てよう教師が手本を示す。</p>	<p>③ 場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てよう教師が手本を示す。</p>	<p>③ 場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てよう教師が手本を示す。</p>	<p>③ 場に応じた挨拶や言葉遣いを身につけ、ルールを守る態度を育てよう教師が手本を示す。</p>		
<p>④ 児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p>	<p>④ 児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p>	<p>④ 児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p>	<p>④ 児童や保護者の願いを受け止めながら指導計画を立て、実践を進める。</p>		
<p>⑤ 効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p>	<p>⑤ 効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p>	<p>⑤ 効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p>	<p>⑤ 効果的な連携方法を工夫し、児童の成長を多面的に見守り指導する。</p>		
<p>⑥ 教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。</p>	<p>⑥ 教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。</p>	<p>⑥ 教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。</p>	<p>⑥ 教育相談を有効に活用し、不適応等の軽減を図る。また、外部機関と連携し、児童や保護者のもつ課題の解決を図る。</p>		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>5保護者・地域から信頼される学校</p> <p>教育活動の公開や情報発信の積極的な推進</p> <p>地域に根ざした教育活動の推進</p> <p>子どもの安全安心確保と健全育成等の推進</p> <p>コンプライアンスの推進</p>	<p>① 「学年だより」「学校だより」やマチコミ・HP等を通じて、学校の情報を積極的に発信する。</p> <p>② 地域の「人・もの・こと」を活用する。</p> <p>③ 登下校の安全の見守りや防犯対策等、子どもたちの安心安全を第一に考えた取組を推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」95%以上</p> <p>保護者アンケート「学校は「学年だより」やHP、マチコミ等を通して、学校の情報を発信している。」90%以上</p> <p>② 自己評価「地域の施設やゲストティーチャーの活用をした。」90%以上</p> <p>③ 自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」90%以上</p> <p>児童アンケート「登下校時、交通のルールを守り、地域の人にあいさつをしている。」90%以上</p> <p>保護者アンケート「お子さんは、交通ルールを守</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>① 自己評価「学級の子どもの成長やがんばりの様子を保護者へ伝えている。」96%</p> <p>保護者アンケート「学校は「学年だより」やHP、マチコミ等を通して、学校の情報を発信している。」96%</p> <p>② 自己評価「地域の施設やゲストティーチャーの活用をした。」91%</p> <p>③ 自己評価「登下校時、交通のルールを守ったり、あいさつをしたりするように指導できた。」96%</p> <p>児童アンケート「登下校時、交通のルールを守り、地域の人にあいさつをしている。」93%以上</p> <p>保護者アンケート「お子さんは、交通ルールを守って登下校をしている。」99%</p>	<p>総合評定</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>① 日々の学校生活の様子や学習活動に応じたHPを更新したり、日常の保護者へ連絡をしたりする中で、児童の実態を地域や保護者へ発信してきた。また、各種たよりを通じて、学校の様子を発信してきた。</p> <p>② 昨年度の実践を生かしながら、今年度の学年の実態や学校行事に応じて、活動内容を考え実践できた。</p> <p>③ 学習の中や日常的な指導において、発達段階に応じて登下校の安全を守る指導ができた。また、地域の方々に挨拶をする児童も増えている。</p>	<p>地域の高齢者を招き、昔の遊び等を子どもたちと行うなど実践されてみたらと思う。また、オープンスクールを活用するなどして地域の力を活用してほしい。</p> <p>あいさつのできるすばらしい八南の子どもたちだと思う。</p> <p>色々な経験や学習から、自らの命を自らで守り、また助け合い、安心安全な学校、地域、子どもたちの成長してほしい。</p> <p>風通しのよい学校になってきているように感じる。</p> <p>学校だけの発信や行動だけでは難しい点もあると思う。今回、教育懇談会で「減災教育」をテーマに開催したが、保護</p> <p>引き続き HP や各種便りを活用して、学校の様子を地域や保護者へ発信できるようにしていきたい。</p> <p>各学年の学習に応じて、ゲストティーチャーを効果的に活用できるように本年度の実践を引き継いでいきたい。</p> <p>引き続き、校区内の危険箇所などに注意しながら、発達段階に応じて指導していく。</p>

<p>④ 避難訓練や安全点検・安全指導を適宜実施し、防災教育・安全教育の徹底を図る。</p> <p>⑤ 多角的な観点から、コンプライアンス違反のリスク要因を解消するための研修と点検を強化し、全職員にコンプライアンスを浸透させる。</p>	<p>④ 自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」90%以上 児童アンケート「災害が起こったときに、素早く、安全に避難する方法を知っている。」90%以上。 保護者アンケート「お子さんは、災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」85%以上</p> <p>⑤ 自己評価アンケート「法令順守できた。」95%以上</p>	<p>④ 自己評価「災害時の避難の仕方についての確に指導できた。」91% 児童アンケート「災害が起こったときに、素早く、安全に避難する方法を知っている。」92%以上 保護者アンケート「お子さんは、災害が起こったときに、どのように避難したらよいか理解している。」74%</p> <p>⑤ 自己評価アンケート「法令順守できた。」95%</p>	<p>④ 各学期に1回、様々な災害の場合を想定した避難訓練が実施できた。また、総合学習の時間と関連づけて災害時の避難の仕方について理解が深まるように啓発できた。</p> <p>⑤ 打ち合わせや研修の時間や利用して適宜、コンプライアンス意識を高める研修ができた。また、職員同士で声かけを行い、意識の向上に努めた。</p>	<p>者の参加が少なかった。ここは、学校がしてくれないではなくて、保護者の意識の低さも原因の一つかもしれない。PTAとの連携をしながら、継続して関係性を強めていけるようにしていきたい。信頼は学校だけの発信や努力だけで築けるものではなく、保護者側の関わり方も問われていると感じる。先日の教育懇談会（減災教育）では、参加者が少なかったことも事実です。「学校がしてくれない」という視点ではなく、保護者自身の意識や行動も振り返り必要があると思う。PTAと連携しながら、継続的に関係性を深めていく仕組みづくりを進めていきたいと考える。</p>	<p>引き続き様々な場合も想定し、災害時の避難訓練等を計画していきたい。また、保護者や地域と連携を図れるようにしていきたい。</p> <p>引き続きコンプライアンス意識の向上を図る必要がある。また、年々、意識や知識を更新していくことは責務である。</p>
<p>活動計画</p>		<p>活動計画の実施状況</p>			
<p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>	<p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>	<p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>	<p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>	<p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>	<p>① 「学年だより」で保護者に学年の様子や必要な情報を発信する。 ・マチコミを使って、必要な情報を発信する。 ・「学校だより」やHP等を通じて、学校の情報を保護者や地域の人に発信する。</p> <p>② 学習内容に応じて施設やゲストティーチャーを有効に活用する。</p> <p>③ 毎月の「学校安全の日」の交通指導において、安全な登校の指導を行い、その様子を記録にまとめておく。</p> <p>④ 避難訓練を適宜実施したり、安全点検・安全指導を毎月1回実施したりする。</p> <p>⑤ コンプライアンス研修を適宜実施したり、コンプライアンス違反がないか点検を毎月1回実施したりする。</p>

重点課題		重点目標		自己評価		学校関係者評価	
重点課題		重点目標		評価指数と活動計画		評価	
<p>6 研修の充実と協働体制の強化</p> <p>・ 未来を見据えた広い視野の教育活動</p> <p>・ 教職員の力量形成</p> <p>「チーム八南」で、補完・協働し合う体制の継続</p> <p>ワークライフバランスを考えた超過勤務時間の改善</p>	<p>① 一人一台タブレットを効果的に活用した授業づくりを工夫する。</p> <p>② 職務研修（ミドルリーダー研・フレッシュ研Ⅰ・Ⅱ）、学校訪問、メンター制等の研修を効果的に活用し、教職員のさらなる授業力の向上を図る。</p> <p>③ 「チーム八南」で、補完・協働し合う体制を継続させ、組織での対応に努める。 「報告・連絡・相</p>	<p>評価指標</p> <p>① 自己評価「タブレットの効果的な活用方法を知っている。」85%以上</p> <p>② 自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」90%以上</p> <p>③ 自己評価「必要な情報を共有することができたか。」90%以上</p> <p>④ 自己評価「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造できたか。」80%以上</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>① 自己評価「タブレットの効果的な活用方法を知っている。」82%</p> <p>② 自己評価「主体的に研修に参加し、実践に生かしている。」95%</p> <p>③ 自己評価「必要な情報を共有することができたか。」100%</p> <p>④ 自己評価「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造できたか。」82%</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>① 夏季休暇中に3回研修を行い、2学期にはロイロ社から講師を招いて研修を実施した。一方で各自が課題意識をもって取り組む自主研修の必要性がある。</p> <p>② メンター研修を、教諭を講師として各学期に2回程度実施した。</p> <p>③ 概ね必要な情報を共有することができたが、伝え方に工夫の余地があると考える。</p> <p>④ 月に1回学年会として、ゆとりの時間を生み出す工夫を</p> <p>どの学年も、発達段階に応じた教育を充実させる研修を行ってほしい。先生方の協力体制がすべてに反映するものと思う。子どもはそれを見て安心し、共に手をたずさえるもの、今後も八南の発展に期待したい。ジェンダーに関する研修を増やすのはどうか。子どもたちに拳手後の指名時に「〇〇さん」は徹底されている様ですが、「男の子読んでください/女の子～してください。」など、性差で区</p> <p>効果的なタブレットの活用を図るため、研修を実施するとともに、他校の実践事例等を参考にしながら校内での取り組みを進める。</p> <p>次年度は、事前にメンターの課題を明確にし、メンターの具体的な悩みや実践に即した協議を取り入れることで、より効果的な研修としていく。</p> <p>日常的に「報告・連絡・相談・確認」を意識し、必要な情報を共有することで、認識のずれや伝達漏れ等を防ぐ。</p> <p>月に1回の学年会を通</p>			

<p>④ 談・確認」 ワークライフバランスを考え、健康で楽しい働き方を工夫する。</p>	<p>① 校内研修、学年会等の時間を利用して、学年で効果的にタブレットが活用できる授業計画を立て、実践する。</p> <p>② ・メンター、メンティーとして、主体的に研修に参加する。 ・研修で得たことを実践に生かす。</p> <p>③ 学年主任、管理職、各担当主任等と必要な情報の共有を行う。「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④ 全教職員がやりがいをもって笑顔で子どもと向き合うため、「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造する。</p>	<p>① 校内研修、学年会等の時間を利用して、学年で効果的にタブレットが活用できる授業計画を立て、実践する。</p> <p>② ・メンター、メンティーとして、主体的に研修に参加する。 ・研修で得たことを実践に生かす。</p> <p>③ 学年主任、管理職、各担当主任等と必要な情報の共有を行う。「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④ 全教職員がやりがいをもって笑顔で子どもと向き合うため、「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造する。</p>	<p>① 校内研修、学年会等の時間を利用して、学年で効果的にタブレットが活用できる授業計画を立て、実践する。</p> <p>② ・メンター、メンティーとして、主体的に研修に参加する。 ・研修で得たことを実践に生かす。</p> <p>③ 学年主任、管理職、各担当主任等と必要な情報の共有を行う。「報告・連絡・相談・確認」</p> <p>④ 全教職員がやりがいをもって笑顔で子どもと向き合うため、「自分の時間」「ゆとりの時間」を創造する。</p>	<p>行い、教員が落ち着いて省察や意見交流に取り組める環境づくりを進めた。</p>	<p>切ることが多いように感じる。 子どもたちにとって安心できる学びの場をつくるためには、先生方の心身のゆとりが不可欠だと思う。教職員同士の協働だけでは限界もあるため、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動をさらに進めることで、可能性は広がると感じる。急激に変えるのではなく、今ある地域資源を活かしながら、学校の困りごとを少しずつ共有し、共に考えていく八万南の形を築いていければと思う。 学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担いながら、対話を重ね、「子どもが安心して挑戦できる環境」を共に創っていくことが、今後ますます重要になると考える。</p>	<p>してゆとりの時間を確保してきたが、次年度も同様に時間的なゆとりを生み出しつつ、研修を実施するには目的や内容を精選し、より充実した研修となるよう工夫していく。</p>
--	---	---	---	---	---	---

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった